

R8現場の声をカタチに！知事のゲンバ・キャラバン（大館・北秋田地域）

開催概要



1 開催概要

- 日 時 令和8年10月3日（土）10:00～11:30
- 訪問先 遊休農地利活用促進有志の会（北秋田市）
- 会 場 再生した遊休農地（北秋田市）
- 参加者

NO.	名前	備考
1	金田 悦子	会長
2	伊東 誠子	副会長
3	多賀谷 テル子	監事
4	中林 めぐみ	会計
5	出川 信久	会員
6	櫻井 豊	会員
7	若松 一幸	アドバイザー
8	佐藤 舞子	北秋田市継業バンク事務局

- 実施内容
 - （1）現場視察「再生した遊休農地の視察」
 - （2）意見交換開会挨拶（知事）
 - （3）団体の取組発表（金田会長）
 - （4）意見交換

2 開会挨拶（知事）

本日はお招きいただき感謝する。

市町村長や様々な業界団体の皆様からご意見を伺う機会が多くあるが、県民の皆様と直接対話する機会は限られている。そこで、今年度よりどなたでもご参加いただける公募開催へと開催方式を変更した。

皆様が再生された農地で収穫体験をさせていただいたが、40数年振りに芋掘りをさせていただき、カ

ポチャの収穫については初体験であった。わずかな作業であったが、これを連日行う手作業の大変さを痛感した。

皆様が普段どのようなことに取り組まれているかを伺った上で、様々な課題や要望について率直なご意見を伺いたい。

3 団体の取組発表

遊休農地利活用促進有志の会の金田会長より、団体の取組について発表。

(1) 設立の経緯

地域の遊休農地を少しでも減らし、農地の有効活用を図り、農業の振興や地域の活性化につなげたいという思いから立ち上げた。

きっかけは、東京で開催された女性農業委員のシンポジウムにおいて全国の活動事例を聞き、「私どもも何か行動を起こしたい」と感じたことである。

現在は、男性の農業委員とも連携しながら取組を進めている。

(2) 主な取組内容及び課題について

① 所有者不明農地・相続課題への対応について 若松 一幸 さん（アドバイザー）

遊休農地の発生防止が理想ではあるが、すべての農地で対応することは困難であり、近年は相続未登記や相続放棄される農地が増加している。そのような農地では、適正な利用権設定や農地中間管理機構を通じた貸し借りに支障をきたすほか、圃場整備の推進における大きな課題となっている。

② 離農に伴う農地の引き受けと人手不足等への対応について 出川 信久 さん（会員）

現在、農業法人として120haの面積で水稻を耕作している。当初は20ha程度からスタートしたが、周囲からの農地の引き受け依頼が徐々に増加してきた。

人手不足が進む中、「地域の農地を守り維持する」との思いから中山間地域等の農地を担ってきたが、更なる広大な農地の管理要望が寄せられており、対応に苦慮している。

また、この労働力不足に対応するため、慣行栽培に加え乾田直播に取り組んできたが、資機材や物価の高騰が続いており、低コスト化を推進しなければ若手農業者の定着や新規就農も困難になると考えている。

③ 担い手の育成について 櫻井 豊 さん（会員）

近年の飼料価格高騰に伴い畜産農家から相談を受け、当会が昨年度再生した農地を活用し、飼料確保に向けた牧草やホールクropp等の生産に取り組んでいる。今年度はその第一歩として、まず牧草の播種を行っている。

(3) 今後の課題と展望

農業委員や地域住民の協力により農地再生を進めてきたが、ボランティア精神のみでは対応しきれない多額の費用が発生する課題に直面している。

現在は北秋田市や国の補助金を活用し、農地の大切さを伝える啓発活動に取り組んでいるが、持続的な活動には安定した資金確保が不可欠である。特に、女性農業者が研修等を通じて知識や

情報を地域へ還元できるよう、研修機会への支援をはじめ、長期的な取組に向けた県の支援をお願いしたい。

今後も地域の皆様と連携しながら活動を展開し、遊休農地解消の輪を秋田県全体へ広げていきたいと考えている。

4 意見交換

○ 知事

地域課題を把握した上で取組を進めている姿勢に敬意を表する。

今回視察した農地面積は20aであり、本格的な農業再生には莫大な資金を要する中、ボランティア精神で地道に積み重ねる取組の趣旨には賛同する。一方で、公金による支援には明確な趣旨や目的、正当性が必要となる。

また、遊休農地の解消は深刻化するクマ被害等を含め県民全体の重大課題であり、県を挙げて取り組んでいきたいと考えている。

現在の県の支援制度は一定規模以上が対象となっているため、現場のニーズにどこまで近づけるかという観点から、本日はどのような要望があるか伺いたい。

○ 伊東 誠子 さん（副会長）

北秋田市内の黄金色の水田が年々減少している現状に対し「何かできないか」との思いを抱く
中、女性農業委員の会議で提案し賛同を得て取組を開始した。

活動の参加者に「農業は楽しい」「自分も携わってみたい」と感じてもらうことが一番の願い
であり、今後は「農をつなぐ」形で活動を継続し、次世代へ継承していきたいと考えている。

○ 佐藤 舞子 さん（北秋田市継業バンク事務局）

北秋田市継業バンクにおいて、後継者のマッチング支援を行っている。

昨年度、米農家の後継者募集1件に対し全国から20件ほどの問い合わせがあった。事業承継の
性質上、受け入れ人数が1、2名に限られることから、関心を持った多くの方々とのつながりを
維持するため北秋田市と協議の上、有志の会と合同で農業体験イベントを企画した。

今年度も10月中旬に体験イベントを開催予定であり、県外からの参加が決定しているほか、現
在も引き続き募集を行っている。

○ 知事

移住に当たり本県における就業先の確保が課題となるが、都市部で勤務する方々にとって農林
業は生活の質や生きがいを重視する観点から魅力的な選択肢となり得る。実際に本県の新規就農
者数は過去最高を更新し続けており、昨年度も280人を確保した。

定着率の向上や更なる担い手の確保、既存農地等との適切なマッチングが次なる課題である。
現在展開中の都市部向け移住促進キャンペーンでも農業を重点的に推進しているため、各種支援
策を活用してもらいたい。

○ 多賀谷 テル子 さん（監事）

会員と同じ思いを持ち、一致団結して取組を推進することは大変貴重な機会であり、気持ちも
若返りやりがいを感じている。各自で農業に従事する中で、仲間と共に活動を展開できることを
非常に喜ばしく思っている。

○ 金田 悦子 さん（会長）

現代の農業はかつての過酷なイメージとは異なり、スマート農業の導入等により効率的な営農が可能となっており、こうした現状を広く周知し、人口減少対策や関係人口創出へ結び付けていきたい。

地域の活性化には女性の活力が必要不可欠であり、女性農業者が学び活躍できる機会や支援を充実し、地域及び本県の更なる活性化へつなげていただきたい。

女性農業委員は増加したが、実際の活動や研修等への参画が困難な実情にある。女性が情報収集や活動の機会を得られないことは、地域農業の遅れに直結すると懸念している。

○ 知事

きっかけとなる機会や意欲を引き出す場を増やしていくことで、より良い取組が展開できるようになると考えている。

○ 中林 めぐみ さん（会計）

本活動において、40代から80代の幅広い世代が共通目標に向かって協働できる点に意義を感じている。多様な意見に触れることが自らの学びや成長につながっており、今後も参加者を増やし地域の活性化に貢献していきたい。

○ 知事

本取組に着手するきっかけとなったのは、全国規模の会議等か。

○ 金田 悦子 さん（会長）

全国女性農業委員推進シンポジウムへの参加が契機である。同シンポジウムで他県の先進事例を学び、本県の優れた自然環境や農業の魅力を生かした独自の活動を展開したいと考えた。

しかしながら、各県すべての委員が参加できる環境にはない。自己負担で参加する熱意ある委員がいる一方で、研鑽の機会を得られず活動意欲を十分に生かせない現状がある。

○ 知事

旅費支援については、多くの業界団体や組織から全国大会や東北大会への参加補助の要望が寄せられるため、特定の団体のみを対象とすることは公平性の観点から課題がある。

また、営利を目的とする企業であれば、研修や情報収集は自社の事業拡大やノウハウの蓄積に向けた自己投資と位置づけられる。

しかしながら、遊休農地解消をはじめとする現場の取組は、本県にとっても課題解決につながるものである。そうした意義を持つ取組として、今後の活動に有効活用できるような支援メニューについては、検討する余地があると考えている。

現場でどのようなニーズが存在するのかについて、具体的な要望や意見を伺いたい。

○ 金田 悦子 さん（会長）

本会の取組を観光資源としても活用し、地域の魅力向上や関係人口の創出につなげていきたい。北秋田市長との意見交換においても、農業体験ツアー等を継続的に開催し、来訪を重ねる中で地域の魅力を実感できる仕組みづくりについて、前向きな評価と賛同を得ている。

また、羽田空港から1時間余りでアクセス可能な大館能代空港の交通利便性を生かし、交流人口・関係人口の拡大を図っていく考えである。

- 知事

国においても「関係人口」の創出・拡大を重視しており、本県としても空き家等の地域資源を活用しながら重点的に取り組んでいる。
- 櫻井 豊 さん（会員）

水害等により水田の排水路が崩落する被害が発生しているが、当該地域には水利組合等の組織が存在しないため復旧対応が困難となっている。

また、集落において農路への砂利敷き等の維持管理を行っている地域があるが、農家の高齢化や離農が進む中、今後の維持管理活動の継続が懸念されており、人手不足の中で集落へ協力を頼みづらい事情もある。

さらに資材や農業機械価格が高騰する中、家族営農等に有効なスマート農業機器等の導入に向け、助成制度の継続・拡充をしていただきたい。
- 知事

少人数で大規模耕作を可能とするスマート農業の導入や生産性向上については国及び県においても推進する方針であり、今後も支援していく。

同時に、中山間地等の小規模農家が営農を継続できる環境整備も重要であり、双方の視点から本県農業の維持・発展に取り組んでいく。

補助金等の支援制度については、時代に合わなくなったものや利用が低調な制度の順次見直しを進める。

水利組合等が組織化されていない農地や水路の改修支援のあり方についても、現場の重要な課題として認識した。
- 櫻井 豊 さん（会員）

水害等による水路の崩落については、行政の縦割りに伴う対応の難しさや、公的支援の適用範囲に明確な線引きが存在することから、自分で対応できる範囲であれば良いが、個人では対応しきれない規模の崩落や破損が発生した場合には、復旧が進まない。
- 出川 信久 さん（会員）

地域の農地保全や米生産の維持に向け、試験的に乾田直播に取り組んでおり成果も出てきている。本取組への更なる支援を求めるとともに、地域全体が良い方向に向かうよう一丸となって乾田直播の推進に取り組んでいきたい。
- 知事

乾田直播については県としても推進していきたいと考えている。作業の省力化による大規模な作付けや、生産コストの削減に向けた取組を積極的に進めていただきたい。
- 知事（感想）

活気ある活動及び意義深い取組の成果が現れており、県としても更なる取組の推進を期待するとともに可能な限りの支援を行っていききたい。

様々な課題が存在する中、今後とも活動を継続していただきたいと考えており、本日いただいた忌憚のない意見や大規模農家における現状と課題についての話は大変参考になった。

○ 司会

以上をもって、意見交換会を終了する。ご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。

5 会場の様子

